

IUFR0-J NEWS

No. 123 (2018.3) —

IUFR0 第 125 周年記念大会特集号 (続)

IUFR0 第 125 周年記念大会における異世代間メンタリング

IFSA/IUFR0 メンタリングコーディネータ Sarah Dickson-Hoyle

IUFR0 大会における若者の関与

IUFR0 第 125 周年記念大会では、2000 人以上の森林科学者及びステークホルダーが世界中から集まり、森林に関わるあらゆるトピック及び領域における知識を共有し交流しました。また、記念大会は、若い学生及び研究生にとって、年長の科学者から学び、今の時代に差し迫った森林に関わる問題のアイデアを共有する刺激的なプラットフォームとなりました。

本大会での主要な構成要素は、若者の強い存在感と、国際森林学生協会 (IFSA)^{注1)} が調整した若者のアクティビティーでした。注目の的となった IFSA 会長 Salina Abraham 氏のモデレートによるサブプレナリーセッション「我々の未来の森林」から、学生及び若きプロの刺激的研究内容を集めたワークショップ及びインキュベーターのセッションまで、IFSA は、記念大会への若者の強い活力に満ちた貢献の先頭に立ちました。

IFSA-IUFR0 のメンタリングプログラムの立ち上げ

国際林業研究センター (CIFOR)^{注2)} 主催グローバルランドスケープフォーラムにおける Youth in landscape Initiative のメンタリングプログラムの成功を足場として、IFSA は IUFR0 第 125 周年記念大会にて初となる

IFSA-IUFR0 メンタリングプログラムを立ち上げました。このプログラムは記念大会に参加した若者に、大会開催期間中、年長研究者及び森林プロフェッショナルとパートナーシップを組み、メンタリングを受ける機会を提供しました。本プログラムの目的は、これから発展しようとしている若い森林科学者に対し、ネットワーキング、異なる世代間の知識の共有、そして彼等がこれからプロとして成長していくことを促すことです。

このプログラムは IUFR0 第 125 周年記念大会ウェブサイト (<http://iufro2017.com/ifsa-iufro-mentoring-program/>) にてアナウンスされ、記念大会登録フォームにはメンターもしくはメンティーとしての参加意思について質問する項目を設けました。その後、記念大会 IFSA-IUFR0 メンタリング支援チームは、参加に興味を示す者にコンタクトして短い内容のオンライン登録フォームの記入をお願いし、主な研究内容、興味をもつテーマ、居住国、



Sarah Dickson-Hoyle

Supporting inter-generational mentoring at the IUFR0 125th Anniversary Congress

Sarah Dickson-Hoyle: CIFOR 渉外係 (2013～2015 年), IFSA メンタリングコーディネータ (2015～2016 年), 2014 年から CIFOR 主催グローバルランドスケープフォーラムの Youth in Landscapes Initiative メンタリングプログラムのコーディネータ。現在は森林及びランドスケープの分野のメンタリングプログラム支援に向けて YPARD (注 3) にて農業研究グローバルフォーラム (GFIR) 助成のメンタリングツールキットに従事。

話す言語及びこのプログラムに参加する理由などの情報をいただきました。

IFSA の熱心なボランティアである 5 人のチームは、最善のパートナーを見つけるためのマッチメイキング「縁結び」に何時間も費やし、申し込んだ参加者の興味、背景及び記念大会テーマの選択内容に基づいて、メンターとメンティーのペアリングを行いました。記念大会を基本とし、研究内容に焦点をあてたこのメンターのプログラムの性質から、メンターとメンティーのマッチングにおいては、両者が同様の研究を行っているか、もしくはプロフェッショナルとしての興味が同様であること、また、記念大会テーマにおいて興味あるテーマが同じであることに最も焦点を当てました。ただし、国、文化的側面（性別や年長レベルなど）、セクターなどにも注意を払いました。例えば、もし指導を受ける者がラテンアメリカ出身で、ラテンアメリカの地域で研究を行っている場合、同じ地域出身の（ただし、所属機関は異なる）メンターを見つけるようにしました。

IFSA-IUFRO メンタリング支援チームは、最終的に 69 人のメンターと 73 人のメンティーの若者とを包括的に検討した上でマッチングし、記念大会前に E メールでお互いを紹介しました。記念大会の多様性を反映するかのように、メンティーの若者とメンターは 51 カ国の異なる国から構成され、年輪年代学やリモートセンシングから、生物多様性保全や森林における国際政策まで、彼らが興味をもつ内容は記念大会テーマによりすべてカバーされることとなりました。

本プログラムは、参加者のニーズに合わせるため、フレキシブルでありオープンなプログラムとして立案されました。同時に、アイデア及び知識共有のため、メンターとメンティーが少なくとも 1 回のセッションは一緒に参加することを推奨し、メンターには、メンティーのためのネットワーキングと、記念大会プロシーディングスへの積極的関与を支援することを推奨しました。

メンターの定義

men-tor

1. A wise and trusted counselor or teacher.
2. Mentor Greek Mythology Odysseus' trusted counselor, in whose guise Athena became the guardian and teacher of Telemachus.

The American Heritage® Dictionary of the English Language, Fourth Edition
Copyright © 2006 by Houghton Mifflin Company.

一例としてメンティーの感想を紹介します。

「実に良く世話していただいたと本当に感じる事ができ、若い研究者として価値を認められることでより大きな自信につながりました」（メンティー、女性、オランダ出身）

メンタリングは、相互協力関係をもって成り立つものです。メンターは、メンティーがこのプログラムに参加することにより若き研究者が関与することの重要性をより強調する良い結果になったことを伝える必要があります。多くのペアが記念大会後もこの関係を継続させ、連絡を取り合う予定であると表明しました。IFSA は IUFRO や YPARD^{注3)} のようなパートナーと連携し、森林セクターのメンタリング支援及びリーダーシップ育成支援を行っていく予定です。

詳細、もしくはメンタープログラムを会議やイベントで調整することに興味をお持ちの場合は、IFSA-IUFRO 記念大会メンタリングコーディネーターである Sarah Dickson-Hoyle にお問い合わせください：

sarah.dh.ifsai@gmail.com

注1：IUFRO-J NEWS No. 120 「IUFRO と国際連携 -4 一次世代森林研究者と教育者の育成-」で IFSA を紹介。

加盟詳細：<http://www.ifsai.net/membership/application-form/>

注2：IUFRO は 2001 年 4 月に CIFOR (Center for International Forestry Research) と、2002 年に IFSA と、MOU を締結。IFSA と CIFOR は 2014 年 Forest Asia Summit で MOU を締結。

注3：YPARD (Young Professionals for Agricultural Development), 若手プロフェッショナルネットワーキングのグローバルコーディネーションは農業研究グローバルフォーラム (GFIR) により構成。

<https://ypard.net/>

(翻訳：IUFRO-J 事務局 川元スミレ)

IUFRO 第 125 周年記念大会に参加して

森林総合研究所 林木育種センター 木村恵

はじめに

2017 年 9 月 18 ～ 23 日までの 6 日間、ドイツで開催された国際大会「IUFRO 125th Anniversary Congress 2017」に参加した。以前、尊敬する研究者の方が「世界中の研究者が集まる世界大会は小さな大会とは雰囲気が違うので、機会があったら是非参加してみると良い」と話していたのを聞いて以来、世界大会への参加はひとつの目標となった。IUFRO-J NEWS にて本大会の開催を知り、発表登録を行った次第である。開催地のフライブルクは石畳が美しく、街路樹として植栽されたセイヨウトチノキの合間に記念大会の旗がはためいていた。空港からのバスを降り、セイヨウトチノキの攻撃的な形状の果実を、「おお凶鑑どおりだ!」とにやりと眺めていたところ、通りがかりの紳士がおもむろにヨーロッパにおける leaf miner 問題について説明を始めてくれた。どうも、私が街路樹を熱心に眺めているのは、葉の虫害をいぶかしんでのことだと思ったらしい。大会参加者の一人である彼は、同じく参加者である同志(?)にヨーロッ



写真-1 開催地であるフライブルクの町並み、街路樹はセイヨウトチノキ。ばらばらと巨大な種子が落ちてくる。
Photo-1 The city view of Freiburg. Trees on the street are the “Horse-chestnut (*Aesculus hippocastanum*)”, which have seeds that attack people from time to time.

パの森林が抱える問題について教えてくれたのである。なるほど、世界中から森林、林業に関する研究者たちが集まってきているのだと実感した。本大会では 5 つの一般講演テーマと 5 つの科学部会に関する発表が行われたが、大会の全容については前号の特集記事に詳しいので、本記事では私が参加したセッション、プログラムなどについて紹介したい。

T2- Genetics and Genomics for Conservation, Climate Adaptation and Sustainable Management of Forests

私はテーマ 2 Forests and climate change 下の Genetics and Genomics for Conservation, Climate Adaptation and Sustainable Management of Forests のセッションにて発表した。このセッションではカナダの O. Rajora 教授がオーガナイザーとなり 3 つのセッションタイムを通して 20 題の口頭発表と 7 題のポスター発表が行われた。発表のトピックは集団遺伝学、アダプテーション、エビジェネティクス、メチレーションなど多岐に渡っていた。同年に Forest Genetics の国際会議が行われたせいか、想像したよりも参加人数は限られているという印象だったが、特定の研究プロジェクトの発表に偏ることなく、様々な研究テーマについて活発な議論がなされていたように思う。興味深かった内容をいくつか紹介したい。まず、アメリカの K. Potter 准教授は気候変動に備えた遺伝資源管理に関する発表を行った。樹種ごとに、分布域、密度、送粉形態など 19 項目の種特性を記述しカテゴライズすることによって脆弱性を 3 つの次元（予測される気候変動の強さ、気候変動への感受性、環境変化への適応度）で総合的に評価し、各樹種の遺伝資源保護の緊急性と保存形態（生息域外保存、生息域内保存）の妥当性を検討していた。限られた労力と予算の中で優先順位と適切な保存形態を検討し効率的な遺伝資源管理を行うこの方法は、多様な樹種が生育する日本においても活用が期待できる方法であると感じた。また、これから生じる気候変動によってどのような変化が起こるのかを調べるため、ヨーロッパに広く生育するヨーロッパナとドイツトウヒを対象にモニタリングが行われている GenMon

The IUFRO 125th Anniversary Congress 2017 - Involving with the IFSA-IUFRO mentoring program and Introduction of “Genetics and Genomics for Conservation, Climate Adaptation and Sustainable Management of Forests”

Megumi KIMURA: Forest Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute



写真-2 セッション会場、オーガナイザーによる趣旨説明の様子。
Photo-2 Organizer's explanation for the concept of the session T2-Genetics and Genomics for Conservation, Climate Adaptation and Sustainable Management of Forests.

プロジェクトに関する研究がいくつかみられた。開葉フェノロジーと遺伝的多様性、遺伝構造を同時にモニタリングするという試みである。この中で、異なる研究室で得られたマイクロサテライトマーカーによる遺伝子型データについて研究室間で整合性を取るための方法論について報告されていた。遺伝子型のタイピングにおける同様の問題点は国内外で指摘されており、こうした方法が開発されれば、正確に素早いデータの取得が期待できるのではと、技術確立が楽しみな発表であった。私は科研費「残存するスギ天然林の成立過程の解明とシミュレーションによる将来予測」の研究成果についてポスターで発表した。ヨーロッパでスギ天然林の話題は果たしてウケるのか？と心配であったが、高知県魚梁瀬地区で行われた間伐施業に関する研究について、天然林施業に興味を持つ参加者から様々な助言を頂くことができた。

新たな人脈の構築—IFSA-IUFRO Congress mentoring program—

本大会ではIFSA (International Forestry Students' Association) と共同で、今回が初の試みであるというメンタリングプログラム (IFSA-IUFRO Congress mentoring program) も行われた。大会登録時にメンタリングプログラムへの参加を問われ、参加する場合には40歳を区切りとしてメンターもしくはメンティーとしてリストに登録される。事務局はメンティーにとって適切なメンターをリストの中から抽出し、双方へマッチングのメールを送付し、大会中にお互いに連絡を取るよう指示を促す。事務局が紹介する情報は相手の名前、所属、eメールアドレス、専門分野などで、ミーティングの段取りな



写真-3 IFSA-IUFRO メンタリングプログラム、著者 (左) とメンティーの C. Gomes さん (右)
Photo-3 IFSA-IUFRO Congress mentoring program. Mentee (Ms. C. Gomes) (Right) and Mentor (Author) (Left).

どは本人任せである。私のメンティーはポーランドで学位取得を目指す博士課程の学生 C. Gomes さんで、指導者である J. Paiva 主任研究員とともに大会に参加していた。Gomes さんの発表後にこちらから話しかけるという約束を取り付け、ティーブレイクを一緒に過ごした。私は彼女の研究手法には明るくなかったため、研究内容について深い議論はできなかったが、休憩時間を一緒に過ごししながら双方が参加したセッションについてのディスカッションや日本のフェローシップの紹介、ライフイベントとキャリア形成について話すなど、楽しい時間を過ごすことができた。また、彼女を通して知り合った J. Paiva 主任研究員もとても気さくな方で、その後の訪問先についても取次ぎを手伝ってくれるなど、私にとっても有益なネットワークを作ることができた。

世界中の研究者が集まる大会であっても、同じ所属のメンバーや知人と過ごしてしまい新たなネットワークの構築は難しい印象があるが、このメンタリングプログラムのように事務局が独自にマッチングして紹介してくれるシステムは面白い試みだと思う。メンティーにとっては進学や就職を考える材料となり、メンターにとっても共同研究や人材獲得に繋がるような新たなネットワークを構築することが出来る。何より関連分野の活性化にとって有用であろう。国内の大会で試みても面白いプログラムかもしれない。

黒い森 (Schwarzwald) へのエクスカーション

エクスカーションは半日から2日の規模で38課題について募集され、13課題が開催された。私はドイツ南部の Schwarzwald で天然更新施業を行っているヨーロッパパモミとドイツウヒの試験地 (Ex. 13) を見学した。

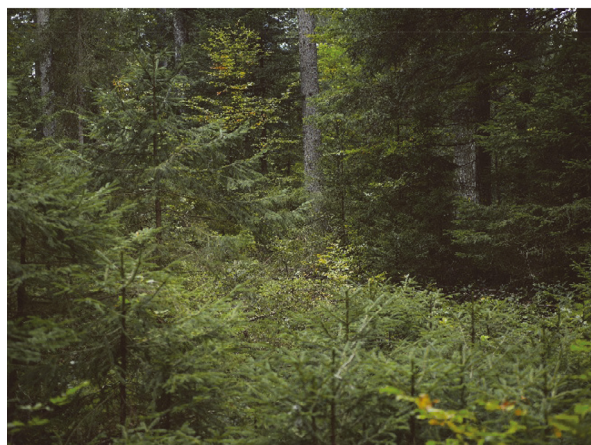


写真-4 黒い森でのエクスカーシヨンの様子、シンブルな種組成の森。林床にはたくさんの更新木が生育している。

Photo-4 Excursion 13, Schwarzwald: Observing uneven-structured mountains mixed with fir forests.

標高 1040 m にある試験地までの移動で酷い車酔いをした私は「帰り道は Kimura を助手席に乗せようじゃないか!」と国籍の異なる同乗者の心をひとつにまとめることに成功した。そんな車酔いでふらつく頭にも、黒い森は荘厳で美しかった。林冠木はヨーロッパモミ、ドイツトウヒ、ヨーロッパブナで構成された単純な林層で、下層植生は少なく更新木が十分に生育していた。各樹種との競争関係を考慮して、更新促進を目的とした試験的な間伐が行われていたが、日本の複雑な種組成を示す温帯林とは大分雰囲気が違う。丁度モミ林で行っているモニタリング調査の結果から、モミの成長には他種との競争が重要であることを示した結果を投稿中であったが、査読者がこの森を想像していたら、そりゃ話がかみ合わないわけだと悲しく腑に落ちた瞬間であった。一方で、天然林施業に関する研究は日本ではマイナーかも知れないが、世界のニーズからは外れていないことを確信し、成果の公表を強く意識した。同じ森を見ながら世界各国の研究者が様々な意見を交わす刺激的な時間を過ごすことができた。

おわりに

本大会は気候変動や持続的な林業をテーマに最新の研究が幅広く発表された大会であり、世界的な研究動向を知り、世界の森林を直接見学することで自分が行っている研究の位置づけを再確認することができて非常に意義であった。また、メンタリングプログラムなどを通して新たな人脈を構築することが出来たことも嬉しい成果のひとつである。今回の大会でもちょっとした会話や関連研究の話題がきっかけとなって「知り合いの知り合い」の話題に繋がる場面がたくさんあった。今回の多くの出会いが次に続く研究テーマの種子となることを期待し、新たに構築した繋がりを大事にしていきたい。

参 考

p. 2 で紹介したように、メンターとは、ギリシャ叙事詩『オデュッセイア』の賢者「メンートル」がその由来である。ケン・ブランチャードらは、著書の「1 分間メンタリング (2017)」の中で、メンタリング6つの鍵を 1) ミッション (Mission) を定める; 2) 絆 (Engagement) を深める; 3) 人脈 (Network) を広げる; 4) 信頼 (Trust) を築く; 5) チャンス (Opportunity) をわかち合う; 6) ふり返り新たにする (Review and Renewal) とした。6つの「鍵」の頭文字を採ると「MENTOR」になる。ケン・ブランチャードらによるメンタリングの定義は以下の通り。

メンタリングには、新人教育、同僚同士、大人と子ども、世代の異なる同士 (異世代間) などさまざまな形があるが、いずれの場合もあなた自身の人生をよい方向に変えるだけでなく、相手の人生をも変えることができる。

日本の厚生労働省も、平成 24 年に女性社員の活躍を推進するための「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」を出版している (<http://www.mhlw.go.jp/topics/koyoukintou/2013/03/07-01.html>)。

(IUFRO-J 事務局)

IUFRO RG3.03.00 と RG3.06.00 の合同アジア地域ミーティング報告

山岳林における主伐の生産性と安全性

ユフロ国際会議実行委員会 実行委員長 山田容三（愛媛大学大学院農学研究科）

1. はじめに

山岳地域の多くの伐出現場は、いまだにチェーンソー作業に頼らざるを得ないという現状にあり、特に困難な地形においては労働災害が頻発しているため、生産性と安全性は世界的に重要な課題であります。また、地形傾斜と出材量が生産性と労働安全に影響を与える山岳林では、架線集材においても考えなければならない条件がたくさんあります。

そこで、IUFRO の RG3.03.00（森林労働科学研究グループ）と RG3.06.00（山岳地の森林作業研究グループ）は、双方の最近の研究成果と情報を交換し、作業技術面と労働科学面から考えられる将来の山岳地の伐出作業について討議し、山岳林の主伐の労働生産性と労働安全を共に向上させる可能性を検討することを目的として、「山岳林における主伐の生産性と安全性」をテーマに合同でアジア地域ミーティングを開催しました。

本合同アジア地域ミーティングは、森林利用学会、愛媛大学大学院農学研究科、高知大学農林海洋科学部の共催により、林野庁、愛媛県、高知県、森林総合研究所四国支所の後援を受けて、2017 年 7 月 24 日～28 日に愛媛県と高知県で開催されました。また、IUFRO-J、日本森林技術協会、松山観光コンベンション協会、愛媛県観光物産協会、高知県観光コンベンション協会から助成を受けるとともに、大日本山林会はじめ 11 の関連協会、ならびに住友建機販売、松本システムエンジニアリング、双日マシナリーはじめ 11 の関連企業からのご協賛をいただきました。

本合同アジア地域ミーティングは、前半の 7 月 24 日～25 日は愛媛大学情報メディアセンター・メディアホールを会場に研究発表会を行い、後半の 7 月 26 日～28 日は愛媛県の久万高原町、高知県の中土佐町と香美市を移動しながら、山岳地の伐出作業の現地検討会を行いました。参加者は全体として 68 名であり、その内訳は、外国からの参加者が 14 名（内学生 3 名）、日本人の参加者が 39 名（内学生 9 名）、協賛協会・企業の招待者

が 5 名、来賓が 6 名、来賓の随行者が 4 名でした。

2. 研究発表会

本合同アジア地域ミーティングの受付は、7 月 23 日（日）午後 1 時から会場である愛媛大学情報メディアセンターにて開始しました。午後 4 時から控室でアイスブレイクを催し、受付後に 40 数名が歓談されました。

7 月 24 日（月）は午前 9 時から受付を開始し、午前 10 時からメディアホールにて開会式を開催しました。まず、愛媛大学大学院農学研究科長の杉森正敏教授から歓迎スピーチがあり、RG3.03.00 コーディネータの山田容三から合同アジア地域ミーティングの趣旨説明を行いました。その中で IUFRO を簡単に紹介しました。開会式には、後援いただいている林野庁から国有林野部の本郷浩二部長と愛媛県農林水産部の田所竜二部長に来賓としてご臨席いただき、ご祝辞をいただきました。引き続き、共催者を代表して、IUFRO Division3 のコーディネータであるオレゴン州立大学の Woodam Chung 教授と森林利用学会の会長である東京農業大学の今富裕樹教授にご挨拶をいただきました。その後、愛媛大学の寺下太郎准教授と 2 年生の河野茜里さんによる勇壮な和太鼓演奏がありました。演目は同大学の二宮生夫教授が作曲された「灘」の 3 部作でした。最後に参加者全員で記念写真（写真-1）を撮影して、開会式が終わりました。

午前 11 時から、RG3.06.00 コーディネータであるパドバ大学の Raffaele Cavalli 教授による基調講演（写真-2）がありました。Steep Terrain Forest Operations – Challenges, Technology Development, Current Implementation, and Future Opportunities というタイトルで、急傾斜地の森林作業について、これまでの取り組みと技術開発、現在の取り組みと将来の可能性について概説されました。

午後からは 2 つのセッションで口頭発表がありました。最初のセッションでは、車両系林業機械の作業に関する 3 つの研究発表がありました。

Introduction of the Joint Regional Meeting of IUFRO RG3.03.00 and RG3.06.00 in Asia: Productivity and Safety of Final Cutting on Mountainous Plantation Forest

Yozo YAMADA: Ehime University, Coordinator of IUFRO Division 3.03.00 - Forest ergonomics

<https://www.iufro.org/science/divisions/division-3/30000/30300/>



写真-1 開会式での記念写真

前列左から RG3.06.00 副コーディネータ 鈴木保志准教授, 前東京大学教授 酒井秀夫先生, 一人飛んで, 愛媛大学大学院農学研究科長 杉森正敏教授, 愛媛県農林水産部 田所竜二郎長, 林野庁国有林野部 本郷浩二郎長, 一人飛んで, IUFRO 第3部会コーディネータ Woodam Chung 教授, 一人飛んで, RG3.06.00 コーディネータ Raffaele Cavalli 教授, 森林利用学会会長 今富裕樹教授, 一人飛んで, RG3.03.00 コーディネータ 山田容三教授

Photo-1 Commemorative photo at the opening ceremony



写真-2 Raffaele Cavalli 教授による基調講演

Photo-2 Keynote speech by Prof. Raffaele Cavalli

1. 鈴木保志 (高知大学) 他 : Productivity of a Harvesting Operation for a Small Clear Cut Block by Direct Grappling using a Harvester in the Kochi University Forest
2. Wathinee Suanpaga (カセサート大学, タイ) 他 : Productivity and Harvesting of Exotic Tree Plantations on Highland in Chiang Mai, Thailand
3. 岩岡正博 (東京農工大学) 他 : Forwarding Operation Using a Tractor and a Trailer in Mountainous Forest

2 つめのセッションでは架線系林業機械の作業に関す

る 4 つの研究発表がありました。

4. H. Hulusi ACAR (イスタンブール大学, トルコ) A New Small Yarding System for Log Transportation
5. 吉村哲彦 (島根大学) 他 : The Limits and Possibilities of Japanese Swing Yarders in Comparison with European Cable Systems
6. 中田千沙・板谷明美 (三重大大学) : Developing Accessibility Measurement Tool between Forests and Woody Biomass Plants Using Google Maps API
7. Andrea R. Proto・Giuseppe Zimbalatti (地中海大学, イタリア) : Physiological Inputs in Cable Yarding Operations

午後 6 時からは生協会館 2 階のリーセスに会場を移し, ウェルカムパーティーを開きました。京都大学の長谷川尚史准教授による司会で, 前東京大学教授の酒井秀夫先生のご発声による乾杯で始まりました。途中で水軍太鼓保存会による水軍太鼓の実演がありました。参加者も太鼓を叩く体験をさせてもらい, 海外の参加者も含めて大盛況でした (写真-3)。最後に森林利用学会の今富裕樹会長の中締めでウェルカムパーティーは終わりました。

翌 7 月 25 日 (火) は, 午前 9 時からメディアホールにて口頭発表の 3 つめのセッションがあり, 森林労働科学に関する 4 つの研究発表がありました。



写真-3 伊予水軍太鼓の体験で盛り上がる参加者
Photo-3 Delighted participants playing the Iyo Navy Drums

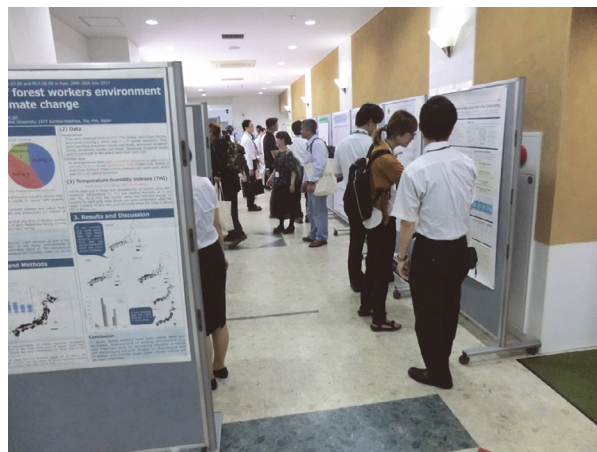


写真-4 ポスター研究発表コアタイムの様子
Photo-4 Core time of poster presentations

8. Efi Yulianti Yovi (ボゴール農科大学, インドネシア) : Risk Perception and Work Safety Behavior of Indonesian Chainsaw Operators
9. 飛田京子・仁多見俊夫 (東京大学) : Analysis of Work-Related Injuries of Felling Work using Chain Saws in Japan
10. 仁多見俊夫・Sooil SUK (東京大学) : ICT Assistance and Management for Manual Chainsaw Operation
11. 永尾牧子・山田容三 (愛媛大学) : Physical Effects of Hinge Shape on Chainsaw Felling Direction in *Chamaecyparis obtusa*

午前10時半からは、ポスター発表のコアタイムとなり、メディアホール横の廊下に24枚のポスターが貼られて、発表者と見学者の間で盛んに情報交換と意見交換が行われました(写真-4)。24枚の中の5枚はマレーシアの研究者と学生によるものであり、11枚が学生によるポスター発表でした。内容としては、主伐に関する発表が6件、林内道路に関する発表が4件、バイオマスに関する発表が3件、森林管理に関する発表が3件、労働科学に関する発表が2件、架線集材に関する発表が2件、下層木被害に関する発表が2件、その他が2件でした。また、企業ブースとして、住友建機販売と双日マシナリーが展示を行いました。

主伐に関するポスター発表

1. 亀山翔平 (日本大学) 他 : Effects of Final Cutting as a Preventive Measure of Pollinosis and the Tama Timber Certification System on the Local Logging System and Productivity
2. 有賀一広 (宇都宮大学) 他 : Analyses on Economic

- Balances of Clear Cutting and Regeneration Operations in the Northern Area of Tochigi Prefecture, Japan
3. 松井美希子 (信州大学) 他 : Productivity of Final Cutting in *Chamaecyparis obtusa* Dominated Shelterwood Stands: A Case of KANAZAWA YAMA National Forest
4. 河瀬麻里 (京都大学) : The Tokyo Metropolitan Government Final Cutting Project
5. 中澤昌彦 (森林総合研究所) 他 : Productivity of Logging Large-Diameter and Long Logs for Final Cutting in a Moderate Mountain Forest
6. Mohd Hasmadi Ismail・Pakhriazad Hassan Zaki (プトラ大学, マレーシア) : Evolution of Forest Harvesting in Peninsular Malaysia

林内道路に関するポスター発表

7. 山崎真 (高知県立森林技術センター) 他 : Improving Forestry Strip Roads and Assessing the Possible Introduction of Logging Operation Systems
8. 松永宙樹 (信州大学) 他 : The Effects of Compaction on Operation Road at the Constructing
9. 山口智 (森林総合研究所) 他 : Moso Bamboo Strip Bundles for Surface Drainage of Slippery Roads
10. 宗岡寛子 (森林総合研究所) 他 : Ground pressure Distribution of Forest Machines

バイオマスに関するポスター発表

11. Nor Azmi Baharom (プトラ大学, マレーシア) 他 : Trend of Charcoal Production from Year 2000 To 2013 from Mangrove Forest Reserve, State of Perak, Malays
12. 山本嵩久 (宇都宮大学) 他 : Availability of Small-

Scale Woody Biomass Power Generation from the View of Forest Resources in Tochigi Prefecture, Japan

13. 吉岡拓如（日本大学）他：An Optimum Size of Slash Pile for a Grinding Operation: Modeling the Operations of a Grapple Excavator and a Horizontal Grinder

森林管理に関するポスター発表

14. 長谷川尚史（京都大学）他：Long-Term Wood Supply Planning using Precise Forest Information
15. 渡辺靖崇（広島県林業技術センター）他：Effect of Variation of Canopy Openness after Thinning Understory Vegetation
16. Md. Damiri Md. Sairi（プトラ大学，マレーシア）他：Managing of Malaysian Tropical Rainforest: Issues and Challenges

労働科学に関するポスター発表

17. 板谷明美（三重大学）：Estimation of Forest Workers Environment under the Climate Change
18. 亀山翔平（日本大学）他：Muscle Load, Heart Rate, and Change in Body Temperature Associated with Tree Felling Work Using a Chainsaw as Revealed by Motion Analysis

架線集材に関するポスター発表

19. 青木遥（高知大学）他：Rigging methods of Simple Logging Cable Systems for Small-scale Forestry
20. 植之原碧（東京農工大学）他：Impact on Skyline and Lifting Line during Cable Yarding

下層木被害に関するポスター発表

21. 白澤紘明（信州大学）他：Method for Determining Felling Directions to Prevent Damage to Saplings
22. 大塚大（信州大学）他：Study on Prediction of Sapling Damage Area by Felling and Skidding

その他のポスター発表

23. Nur Afifah Mohamad Amran（プトラ大学，マレーシア）他：Factor of Illegal Logging through Villagers Perspectives: A Case Study in PRF Ulu Sat, Kelantan, Peninsular Malaysia
24. Wan Nur Farinie Wan Zee（プトラ大学，マレーシア）他：The Temiar Community in Kelantan, Peninsular Malaysia: Their Socioeconomic and Culture Values

午後1時半からメディアホールで全体会議が開かれ、高知大学の鈴木保志准教授から研究発表のまとめがあり、2日間の研究発表会を終えました。午後2時からは希望者による松山市内観光オプションツアーがあり、松山城と道後温泉本館をガイドに案内されて見学しました。しかし、炎天下の松山城は外国からの参加者には思ったより大変だったようです。

3. 現地検討会

7月26日（水）は、午前8時に大型バスで久万高原町に向かいました。道の駅天空の郷さんさんでマイクロバス2台に分乗し、山道を1時間かけて笠方の皆伐現場に午前11時に到着しました。久万高原町は愛媛県内で有数の林業地域であり、木材生産量は年間17万 m^3 になり、愛媛県の木材生産量の40%以上を占めています。森林率90%で人工林率80%のほとんどが急傾斜地に存在していますが、久万高原町では集材架線をあまり使わず、歴史的に作業路を高密度に整備して横積み式林内作業車を始めとする車両系集材を行っています。

見学した皆伐現場は、久万高原町が所有するスギとヒノキの58～88年生の人工林であり、ここから644 m^3 を出材することが見込まれています。皆伐作業は有限会社マツモトが請負い、作業道作設から皆伐、運材、植栽まで行います。彼らは、この皆伐現場に300 m^3/ha の作業道を整備しながら、チェーンソーによる伐採、グラップルによる木寄せ、作業道上でのプロセッサ造材、フォワーダによる土場までの下げ荷集材を同時平行的に行っていました。この作業システムによる労働生産性は、12～13 $\text{m}^3/\text{人}/\text{日}$ になるとのことです。

午後からは、千本山に移動し、岡信一氏の所有の長伐期大径材生産展示林を所有者の岡氏のご案内で見学しました。137年生の立派なスギ上層木と間伐の度に植栽したヒノキ下層木が織りなす多段林に広葉樹の大木や豊富な下層植生も加わった美しい複層林に参加者全員が感銘を受けました（写真-5）。さらに、岡氏から上層木間伐の選木の仕方、400～500 m^3/ha の高密度路網を整備した森林経営、チェーンソー伐倒と大型の横積み式林内作業車を使った短幹集材による大径丸太の伐出方法などの説明を受けて、海外の参加者からの質問が絶えませんでした。最後にWoodam Chung教授からお礼のご挨拶があり、全員で記念写真（写真-6）を撮影して高知に向かいました。

7月27日（木）は、午前8時15分にマイクロバス2台で中土佐町に向かいました。午前11時に大野見の間伐作業現場に到着し、須崎森林組合によるH型架線集



写真-5 岡信一氏による複層林管理の説明、137年生スギ上木間伐の伐根を囲んで質疑

Photo-5 An explanation about forest management of multilayer forests by the owner, Mr. Shinichi Oka



写真-6 久万高原町の岡氏複層林で記念写真

Photo-6 Commemorative photo at Oka's forest in Kumakogen town

材を見学しました（写真-7）。現場のH型架線は、150mの間隔で2本のスカイラインを平行に谷を渡る形で張ったものであり、それぞれのスカイラインの長さは890mと700mでした。H型架線では、この平行に張ったスカイラインの間の空間全体から間伐木を全木で集材が可能となります。この間伐現場は7.5haあり、間伐率は30～35%で、出材量は570m³を予定しています。しかし、複雑な索張りですから、架設に120人日を要し、労働生産性は架設撤去を入れると7m³/人/日に止まります。4m長さのスギ丸太の市場価格が1万円/m³くらいですから、補助金を使わないと赤字のシステムになるとのことでした。H型架線に慣れた「とされいほく」では、架設に60人日、張替えに45人日で行えるとのことですので、労働生産性はもっと高くなると考えられます。

午後は、四万十町に移動し、「とされいほく」が作業



写真-7 中土佐町間伐作業現場でのH型架線集材

Photo-7 The H-type cable yarding at a thinning site in Nakatos town

道を作設している興津の現場を見学しました。「とされいほく」では、ザウルスロボを使って作業道を作設しており、152haの間伐作業地に125m/haの路網を開設する予定とのことでした。トラックの走る幅員3.6mの道路は30～35m/日開設でき、コストは3000円/mになります。また、10t車が入る道の場合は、4000～5000円/mかかるとのことでした。フォワーダの走る幅員3mの作業道なら50m/日開設できるとのことでした。ザウルスロボは、最大直径60cmのスギを伐採したことがあり、伐倒用ナイフは月に1回程度研ぐとのことでした。

その後、高知市内に戻り、午後6時半から土佐御苑でフェアウェルパーティーが開かれました。高知大学の鈴木保志准教授の司会で、森林総合研究所の山口智主任研究員のご発声による乾杯で始まりました。松山だけの参加者や当日の飛行機で帰られる参加者も多く、人数はかなり少なくなりましたが、土佐御苑スタッフによる「うげうげ踊り」の後、参加者が国別に歌を披露し合って盛り上がりしました。Division3コーディネータのWoodam Chung教授から挨拶があり、この合同アジア地域ミーティングで印象に残ったことを3つ話されました（写真-8）。1つ目は両リサーチグループの共同開催による分野を越えた情報交換と意見交換が行えたこと、2つ目は12人の学生達が全員研究発表をして若手の活気が溢れていたこと、3つ目は今まで経験した国際会議の中で最も暑かったということでした。最後に東京農工大学の岩岡正博准教授の中締めでフェアウェルパーティーは終わりました。

7月28日（金）は、午前8時15分に大型バスで香美市に向かいました。午前9時30分から高知県立森林技術センターにおいて山崎敏彦チーフから日本の山岳地の伐出作業について講演があり、その後、H型架線の模型を前にH型架線の詳しい説明があり、参加者からも質



写真-8 フェアウェルパーティーで Woodam Chung 教授の挨拶、研究発表した日本大学院生を激励する

Photo-8 An ending speech by Prof. Woodam Chung at the farewell party

問や意見が続出して、時間を超過して内容の濃いディスカッションができました。

閉会式は予定の時間を 20 分ほど遅れた午前 11 時 20 分から高知大学の鈴木保志准教授の司会で始まりました。ご来賓として、共催者の高知大学農林海洋学部の尾形凡生学部長、ユフロ国際会議実行委員会委員をお願いしております林野庁四国森林管理局の野津山善晴局長、ご後援いただいている高知県林業振興・環境部の田所実部長から、それぞれご祝辞をいただきました。最後に RG3.06.00 コーディネータの Raffaele Cavalli 教授から本合同アジア地域ミーティングのまとめをしていただき、5 日間の日程を盛会の内に無事に終えることができました。

本合同アジア地域ミーティングはこれで終了しましたが、午後 2 時から希望者による高知市内観光オプションツアーがあり、ジャンボタクシーを使って高知城と桂浜を見学しました。

4. まとめ

閉会式で話された Raffaele Cavalli 教授のまとめを引用して、本合同アジア地域ミーティングの総括をします。

第 1 に、本合同アジア地域ミーティングは、14 名の外国人を含む 68 名の参加者を得て、若い研究者と学生も加わった 12 の口頭発表と 24 のポスター発表があり、IUFRO 基準のゴールを達成しています。

第 2 に、日本、インドネシア、タイ、マレーシア、台湾の大学と研究機関からの参加があり、さらにチェコ共和国、イタリア、トルコ、アメリカ合衆国から大学教員が参加しており、アジア地域ミーティングを行う意図は

満たされています。

第 3 に、2 つの異なる研究グループ間で、伐出作業に関係する研究が 31 件報告され、その多くは山岳林に関係するものであり、さらに労働科学に関係する研究が 6 件報告され、RG3.03.00 と RG3.06.00 の本当の意味の合同ミーティングになっています。

第 4 に、ユフロ国際会議実行委員会が設定した目的を達成しています。設定した目的は、以下の 3 つになります。

- ・お互いの最近の研究活動と情報を交換すること
- ・山岳林の伐出作業技術と労働科学を議論すること
- ・山岳林における主伐の労働生産性と労働安全を改善する可能性を評価すること

地域レベルのミーティングは、いろんな背景の中であまり気づかれていないあるいは全く気づかれていないリスクを伴った予備的な研究の発表を認めてきました。それは、お互いの研究活動と情報の交換が同質の研究背景をより効果的に促進することにつながっています。

議論と評価は、室内での口頭発表やポスター発表に限らず、よく準備された野外活動（現地検討）を通して続けられました。この現地検討を通して、参加者は、四国の山岳林に適応した異なる伐出システム、林道作設技術、森林経営ルールに触れる機会を持ちました。

口頭発表とポスター発表ともに堅実な研究活動に支えられて、論理的に発表されたものであり、全体的に研究発表の質は良いものでした。また、この合同アジア地域ミーティングは若い研究者にとって一種の練習場として使われており、このことが特別な満足感をもたらしています。彼らの内の数人は、初めて英語で研究発表をしました。IUFRO RG3.06.00 のコーディネータとして、また年長の科学者として、これらの若い研究者達にお勧めしたいことは、科学的研究は情熱や倫理によって特徴づけられるということを決して忘れないでください。そして、あなたの興味のある科学的分野に誠実であること、しかし、他の科学分野による攪乱を恐れしないでください。

最後に、お忙しい中、最も暑い季節に遠路はるばる日本まで来られた外国からの参加者の皆様、また、日本の各地から来られた参加者の皆様、最新の研究発表と熱心な議論で本合同アジア地域ミーティングを盛り上げていただき、心よりお礼申し上げます。また、ご後援、ご協賛いただいた関連機関、協会、企業の皆様のおかげで無事に本合同アジア地域ミーティングを成功裡に終えることができました。改めて感謝申し上げます。さらに、本合同アジア地域ミーティングの運営にご協力をいただい

た広島県林業技術センターの渡辺靖崇氏ならびに学生アルバイトの皆様、現地見学でお世話になりました中予山岳流域林業活性化センターの小野哲也氏と本藤幹雄氏、久万広域森林組合の皆様ならびに岡信一氏、高知県立森

林技術センターの山崎真氏ならびに須崎森林組合の皆様と「とされいほく」の皆様、ご講演いただいた高知県立森林技術センターの山崎敏彦氏に、この場を借りましてお礼申し上げます。



◇ 1. IUFRO 第 125 周年記念大会への日本からの発表者

IUFRO 第 125 周年記念大会プログラム記載の日本からの記念大会発表者 52 名は以下の通りです。要旨集 (ISBN 978-3-902762-88-7) とあわせてご覧ください。

http://iufro2017.com/wp-content/uploads/2017/11/IUFRO17_Abstract_Book.pdf

Agathokleous, Eugenios, Department of Forest Science, D7
Akashi, Nobuhiro, PhD, Hokkaido Research Organization, Chair, T4

An, Ji Young, Kyoto University, T5

Dannoura, Masako, PhD, Kyoto University, T5

De Jong, Wil, Prof., Kyoto University, Chair, D9

Ehara, Makoto, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, T3

Futai, Kazuyoshi, Prof., Futai's Home, D7

Harada, kazuhiko, Prof., Nagoya University, D6

Hirano, Yasuhiro, PhD, Nagoya University, D6, T5

Hirano, Yuichiro, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, D6

Hirata, Yasumasa, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, D4

Ikeda, Takefumi, Prof., Kyoto Prefectural University, D7

Inoue, Mariko, PhD, Tama Forest Science Garden, Poster, T1

Ishida, Atsushi, Prof., Center for Ecological Research, T5

Ishizaki, Ryoko, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, D3

Kanzaki, Mamoru, Prof., Kyoto University, Theme 1

Kimura, Megumi, PhD, Forest Tree Breeding Center, Poster T2

Kitajima, Kaoru, Prof., Division of Forest and Biomaterials Science, D6

Kohsaka, Ryo, Prof., Tohoku University, D6

Koike, Takayoshi, Prof., Hokkaido University, D7

Kondo, Minoru, Assistant Professor, Nagoya University, Poster D3

Matsushita, Koji, PhD, Division of Forest and Biomaterials Science, Poster D3

Matsuura, Toshiya, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, Poster T3

Mitsuda, Yasushi, PhD, University of Miyazaki, D4

Miyamoto, Asako, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, Poster D6

Mori, Akira, PhD, Yokohama National University, T2

Mori, Masanori, Nagoya university, D6

Nakamura, Kazuhiro, PhD, Center for Spatial Information Science, D7, Poster T1

Nakashima, Tadashi, Prof., Kyoto University, Poster T1

Nitami, Toshio, Prof., Forest Utilization, D3

Nozawa, Naoki, Waseda University, Poster D4

Ota, Ikuo, Prof., Faculty of Agriculture, T1

Ota, Tetsuji, PhD, Kyushu University, Poster D4

Owari, Toshiaki, PhD, The University of Tokyo, Poster T4

Sadeepa, Jayathunga, The University of Tokyo, Poster D4 and T4

Saito, Kaoru, Prof., Dept. of Natural Environmental Studies, Poster T1

Saito, Masashi, PhD, Shinshu University, Poster D3

Sakai, Masaharu, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute, T2

Sakata, Yumi, Nagoya University, Poster D9

Sato, Noriko, Prof., Kyushu University, Poster D9

Shirai, Yuko, Prof., Waseda University, Poster D3

Sugiura, Katsuaki, Assistant Professor, College of Bioresource Sciences, Poster T1

Suzuki, Maki, PhD, Department of Natural Environmental Studies, T4

Suzuki, Yasushi, Prof., Kochi University, D3

Takagi, Masahiro, PhD, University of Miyazaki, Poster T4

Takayama, Norimasa, PhD, Forestry and Forest Products Research Institute D7

Tani, Yukako, Assistant Professor, Tohoku Gakuin University, Faculty of Economics, Poster D6

Tateishi, Makiko, PhD, Arid Land Research Center, Poster T5

Uchiyama, Yuta, PhD, Tohoku University, D6
 Ueda, Hirofumi, PhD, Hokkaido University, D6
 Yamada, Yozo, Prof., Ehime University, Organizer of D3
 Yamada, Yusuke, Forestry and Forest Products Research
 Institute, Poster D4

5 テーマ (T) と 5 部会 (D) 総会

T1: 森林と人々 (Forests for people)
 T2: 森林と気候変動 (Forests and Climate Change)
 T3: 環境保全型の未来に向けた森林と林産物 (Forests
 and Forest-based Products for a Greener Future)
 T4: 生物多様性, 生態系サービス, 生物学的侵入

(Biodiversity, Ecosystem Services and Biological
 Invasions,

T5: 森林, 土壌, 水の相互作用 (Forests, Soil and Water
 Interactions)
 D3 森林作業工学 (Forest Operations Engineering and
 Management)
 D4 森林アセスメント, モデリング, 経営 (Forest
 Assessment, Modelling and Management)
 D6 森林林業の社会的見地 (Social Aspects of Forests
 and Forestry)
 D7 森林の健全性 (Forest Health)
 D9 森林政策と経済 (Forest Policy and Economics)

◇ 2. IUFRO カレンダー

開催日	部門	国際研究集会名	開催場所	コンタクト先, Email
2019-09-24 2019-09-27	5.01.00 5.01.09	21st International Nondestructive Testing and Evaluation of Wood Symposium	Freiburg, Germany	Xiping Wang, Email: xwang@fs.fed.us Franka Brüchert, Email: Franka.Bruechert@forst.bwl. de Udo Hans Sauter, Email: Udo.Sauter@forst.bwl.de
2019-05-20 2019-05-24	4.00.00	A century of national forest inventories – informing past, present and future decisions	Oslo, Norway	Johannes Breidenbach, Email: job@nibio.no Aksel Granhus, Email: agr@nibio.no
2018-12-04 2018-12-07	9.03.01 9.03.02	International Conference “European Forests – Our Cultural heritage”	St. Georgen am Längsee, Carinthia, Austria	Elisabeth Johann, Email: elisabet.johann@aon.at
2018-11-27 2018-11-30	1.01.06	Sixth International Conference on Plants & Environmental Pollution (ICPEP-6)	Lucknow, India	Somidh Saha, Email: somidh.saha@kit.edu
2018-11-12 2018-11-18	1.05.00	Uneven-aged silviculture: challenges for increasing adaptability	Valdivia, Chile	Pablo Donoso, Email: pdonoso@uach.cl
2018-11-05 2018-11-09	5.00	2018 Joint convention between Society of Wood Science and Technology (SWST) and the Japan Wood Research Society (JWRS): Era of Sustainable World - Tradition and Innovation for Wood Science and Technology	Nagoya, Japan	Pekka Saranpää, Email: pekka.saranpaa@luke.fi
2018-11-05 2018-11-09	8.00.00 T34	5th International Conference on Forests and Water in a Changing Environment	Valdivia, Chile	Adam Xiaohua Wei, Email: adam.wei@ubc.ca
2018-10-30 2018-11-01	5.12.00	International Workshop for Certified Forest Products and Sustainable Forestry	Beijing, China	Robert Deal, Email: rdeal@fs.fed.us Lu Wenming, Email: luwenming@126.com
2018-10-29 2018-10-31	5.05.00	14th Pacific Rim Bio-Based Composites Symposium (BIOCOMP2018)	Makassar, Indonesia	Marius Barbu, Email: marcat@gmx.at
2018-10-28 2018-11-04	2.08.04	Seventh International Poplar Symposium - New Bioeconomies: Exploring the Potential Role of Salicaceae	Buenos Aires, Argentina	Organizing Committee, Email: ips7ba@gmail.com
2018-10-28 2018-10-30	4.01.00	Forest Biometrics and Modeling Research: Past Successes, Current Challenges and Future Prospects	Blacksburg, Virginia, United States	Temesgen Hailemariam, Email: temesgen. hailemariam@oregonstate.edu
2018-10-23 2018-10-27	T29	4th International Congress on Planted Forests: Planted Forests – A Solution for Green Development	Nanning, Guangxi, China	Christophe Orazio, Email: christophe.orazio@efi.int
2018-10-21 2018-10-26	7.03.04	“Diseases and Insects in Forest Nurseries Working Party Meeting”	Kuşadası, Turkey	Audrius Menkis, Email: audrius.menkis@slu.se
2018-10-01 2018-10-05	8.00.00	Adaptive Management for Forested Landscapes in Transformation	Posadas, Misiones, Argentina	Sandra Luque, Email: sandra.luque@irstea.fr
2018-09-27 2018-09-29	5.00.00	9th Scientific Conference “Innovations in Forest Industry and Engineering Design - INNO 2018”	Sofia, Bulgaria	Conference Organizers, Email: inno_conference@ltu. bg; inno_conference@abv.bg
2018-09-25 2018-09-27	4.01.00 4.02.07 4.03.00 4.04.02 5.01.04	New Frontiers in Forecasting Forests 2018	StellenboschSouth Africa	David Drew, Email: drew@sun.ac.za
2018-09-24 2018-09-27	9.05.00	International scientific conference: “African forest- related policy and politics”	Yaoundé, Cameroon	Symphorien Ongolo, Email: songolo@uni-goettingen. de, iufroyaounde2018@gwdg.de
2018-09-20 2018-09-21	5.04.00 5.05.00	5th International Conference on Processing Technologies for the Forest and Bio-based Products Industries	Freising/Munich, Germany	Marius Barbu, Email: marius.barbu@fh-salzburg.ac.at
2018-09-18 2018-09-21	1.01.07	11th International Beech Symposium: Natural and Managed Beech Forests as Reference Ecosystems for the Sustainable Management of Forest Resources and the Conservation of Biodiversity	Viterbo, Italy	Alfredo Di Filippo, Email: difilippo@unitus.it

開催日	部門	国際研究集会名	開催場所	コンタクト先, Email
2018-09-18 2018-09-21	7.01.01	Forest Science for a Sustainable Forestry and Human Wellbeing in a Changing World	Bucharest, Romania	Ovidiu Badea, Email: badea63@yahoo.com
2018-09-17 2018-09-21	2.08.03 1.02.01	Managing eucalypt plantations under global changes	Montpellier, France	Jean-Paul Laclau, Email: jean-paul.laclau@cirad.fr
2018-09-17 2018-09-20	IUFRO	Cool forests at risk? The Critical Role of Boreal and Mountain Ecosystems for People, Bioeconomy, and Climate	Laxenburg, Austria	IUFRO Headquarters, Email: office@iufro.org
2018-09-17 2018-09-19	4.04.00	Landscape Management: From Data to Decision	Prague, Czech Republic	Robert Marusak, Email: marusak@fd.czu.cz
2018-09-13 2018-09-14	T31 T34	Forests landscapes in times of changing climate and water resources	Corvallis, Oregon, United States	Adam Xiaohua Wei, Email: adam.wei@ubc.ca Andreas Bolte, Email: andreas.bolte@thuenen.de
2018-09-10 2018-09-15	2.09.02	5th 2.09.02 Working Party Conference	Coimbra, Portugal	Jorge Canhoto and Sandra Correia
2018-09-09 2018-09-14	9.01.03	The Importance of Engaging Local Communities and Stakeholders to Increase Successful Adoption of New Technologies	Christchurch, New Zealand	Janean Creighton, Email: Janean.Creighton@oregonstate.edu
2018-08-28 2018-08-31	4.02.02	International Symposium of SFEM2018/IUFRO 4.02.02: Integrating Forest Ecosystem Management for Next Generations	Nantou, China-Taipei	Satoshi Tatsuhara, Email: tatsu@fr.a.u-tokyo.ac.jp
2018-08-26 2018-09-01	7.02.01	IUFRO Working Party 7.02.01 "Root & Stem Rots" Conference	Uppsala, Sweden	Rimvys Vasaitis, Email: rimvys.vasaitis@slu.se Jan Stenlid, Email: jan.stenlid@slu.se
2018-08-20 2018-08-21	4.01.06	Hands-On Workshop on Individual/Agent-Based-Modelling	Umeå, Sweden	Arne Pommerening, Email: arne.pommerening@slu.se
2018-08-05 2018-08-10	2.02.15 7.03.11	Workshop on Tree Resistance to Insects & Diseases: Putting Promise into Practice	Mt. Sterling, Ohio, United States	Richard A. Snieszko, Email: rsniezko@fs.fed.us
2018-07-23 2018-07-25	1.03.00 2.08.04	WOODY CROPS 2018 - International Short Rotation Woody Crops Conference	Rhineland, Wisconsin, United States	Ron Zalesny, Email: rzalesny@fs.fed.us
2018-07-15 2018-07-18	3.00.00	The 41st Council on Forest Engineering Annual Meeting: Revolutionary Traditions, Innovative Industries	Williamsburg, Virginia, United States	Chad Bolding, Email: bolding@vt.edu
2018-06-24 2018-06-28	9.04.00	The Evolving Political Economy of Multiple Values and Multiple Stakeholders	Vancouver, BC, Canada	Shashi Kant, Email: shashi.kant@utoronto.ca
2018-06-21 2018-06-23	2.04.11	AForGeN 2018	Kranjska Gora, Slovenia	Maria Höhn, Email: Hohn.Maria@kertk.szie.hu Marjana Westergren, Email: marjana.westergren@gozdis.si
2018-06-20 2018-06-22	3.02.00 T29	4th International Conference on Reforestation Challenges	Belgrade, Serbia	Email: vladan.ivetec@sfb.bg.ac.rs
2018-06-11 2018-06-13	3.08.00	IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry Conference 2018 "Transformations Towards a New Era in Small Scale Forestry"	Vaasa, Finland	Email: Teppo Hujala, teppo.hujala@uef.fi Heimo Karppinen, Email: heimo.karppinen@helsinki.fi
2018-06-10 2018-06-16	8.01.03	North American Forest Soils Conference - International Symposium on Forest Soils	Quebec City, Quebec, Canada	Thomas Fox, Email: trfox@vt.edu Paul Hazlett, Email: paul.hazlett@canada.ca
2018-06-6 2018-06-8	5.00.00 7.00.00 7.01.00 9.00.00	Natural resources, green technology and sustainable development/3-GREEN2018	Zagreb, Croatia	Pekka Saranpää, Email: pekka.saranpaa@luke.fi Eckehard Brockerhoff, Email: eckehard.brockerhoff@scionresearch.com Elena Paoletti, Email: elena.paoletti@cnr.it Daniela Kleinschmit, Email: daniela.kleinschmit@ifp.uni-freiburg.de Renata Stojaković, E-mail: GREEN2018@sumins.hr
2018-06-6 2018-06-8	4.04.04 4.04.07	Communicating Risks in Decision Support Systems: from basic research to advance decision support tools	Solsona and Barcelona, Spain	Rasoul Yousefpour, Email: rasoul.yousefpour@ife.uni-freiburg.de
2018-05-21 2018-05-25	7.01.00 7.01.02 7.01.05 7.01.09	International Conference on Ozone and Plant Ecosystems	Florence, Italy	Elena Paoletti, Email: elena.paoletti@cnr.it
2018-05-17	5.04.13	Operations Management in Wood Products Industries	Vienna, Austria	Manfred Gronalt, Email: manfred.gronalt@boku.ac.at
2018-05-15 2018-05-19	6.07.00	European Forum on Urban Forestry conference EFUF 2018: Increasing cities, decreasing green areas - Challenge to urban forests and green professionals	Helsinki, Finland	Cecil C. Konijnendijk van den Bosch, Email: cecil.konijnendijk@ubc.ca
2018-05-10 2018-05-12	4.05.00 4.05.01 4.05.02 4.05.03	Sustainable Forest Management for the Future - The Role Of Managerial Economics And Accounting	Zagreb, Croatia	Stjepan Posavec, Email: sposavec@sumfak.hr
2018-05-08 2018-05-09	5.01.09	Technical Workshop: New Advances in Nondestructive Evaluation of Wood	Beijing, China	Xiping Wang, Email: xwang@fs.fed.us
2018-04-29 2018-05-03	5.03.00	IRG49 - IRG-WP Scientific Conference	Johannesburg, South Africa	Andrew Wong, Email: awong.unimas@gmail.com
2018-04-23 2018-04-25	8.03.06	Tree Motion and Wind Measurement Workshop	Roskilde, Denmark	Barry Gardiner, Email: barry.gardiner@efi.int
2018-04-16 2018-04-19	3.00.00	6th International Forest Engineering Conference: Quenching our thirst for new knowledge	Rotorua, New Zealand	Rien Visser, Email: rien.visser@canterbury.ac.nz
2018-03-27 2018-03-28	6.09.00	5th Asia-Pacific Forestry Education Conference - Globalization of Higher Forest Education in a Digital Era	Beijing, China	Mika Rekola, Email: mika.rekola@helsinki.fi

出典：IUFRO イベントカレンダー（2018年3月16日版, <http://www.iufro.org/events/calendar/current/>）

◇ 3. IUFRO News

IUFRO 内外の森林関係国際会議情報を含めた IUFRO News は、IUFRO 本部から主要情報が年 10 回提供され、IUFRO メンバーと公職者、その他の関係者に広く配布されています。IUFRO News 投稿をお考えの際には、IUFRO のウェブサイトコンテンツに貢献するか、IUFRO Spotlight を経由する必要があります。IUFRO News では、就職情報や IUFRO 書籍も掲載されています。本誌ではその他の国際会議情報を最新の IUFRO News から転載します。IUFRO News は、以下から PDF 版をダウンロードできます。

<http://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/>

◇ 4. その他の国際会議

IUFRO News, Volume 47, Double Issue 2/3, 201 から転載

21 Mar 2018

The Sky is the Limit

Geneva, Switzerland

UNECE-FAO event to mark the International Day of Forests

Contact: Leonie Meier, leonie.meier@unece.org

<https://www.unece.org/index.php?id=46328>

23-25 Apr 2018

3rd Asia-Pacific Rainforest Summit

Yogyakarta, Indonesia

Asia-Pacific Rainforest Partnership; Contact: aprs-info@cgiar.org

<https://www.cifor.org/asia-pacific-rainforest-summit-2018/>

27-29 Apr 2018

International Agroforestry Conference (IAC) 2018

Kathmandu, Nepal

Contact: naf1@wlink.com.np, nafnepal@gmail.com

<http://nafnepal.org.np/call-for-papers-international-agroforestry-conference-2018/>

12-15 Jun 2018

VII Congresso Florestal Latino-Americano – CONFLAT

Vitória, Espírito Santo, Brazil

Contact: eventos.vix5@wineventos.com.br

Details: <http://conflat.com.br/>

16-19 Sep 2018

Pathways – Human Dimensions of Fisheries and Wildlife Conference Europe

Goslar, Germany

Alfred Toepfer Academy for Nature Conservation of Lower Saxony, Colorado State University

Contact: pathways2018@nna.de

<https://www.nna.niedersachsen.de/pathways/Pathways-156935.html> <https://sites.warnercnr.colostate.edu/pathways/>

30 Sep-3 Oct 2018

International Urban Forestry Congress 2018 -, The Urban Forest, Diverse in Nature'

Vancouver, Canada

Organized by City of Vancouver, City of Surrey, University of British Columbia, Tree Canada, ISA Pacific-Northwest Chapter; Contact: secretariat@iufcvancouver2018.com
<http://www.iufcvancouver2018.com/>

1-4 Oct 2018

Preparing Europe for invasion by the beetles emerald ash borer and bronze birch borer

Vienna, Austria

Contact: Hugh Evans, Hugh.Evans@forestry.gsi.gov.uk

<https://bfw.ac.at/rz/bfwcms.web?dok=10361>

28 Nov-1 Dec 2018

1st World Forum on Urban Forests: Changing the Nature of Cities

Mantova, Italy

FAO, Municipality of Mantova, SISEF, Politecnico di Milano

<https://www.wfuf2018.com/>

◇ 5. IUFRO 最新ニュース

IUFRO Latest NEWS 最新のものから、刊行物紹介を兼ねて一部抜粋します。

<http://www.iufro.org/nc/news/?linkpid=199>

また、IUFRO 本部の最新情報を追っていただくために、最新情報ニュースは IUFRO-J 英語ウェブサイトトップページ左上でも許可を得て IUFRO Latest News として転載しています。

2018-03-21

Happy International Day of Forests - happy World Water Day!

<https://www.iufro.org/news/article/2018/03/21/happy-international-day-of-forests-happy-world-water-day/>

2018-03-13

IUFRO News Vol. 47, Double Issue 2/3, March 2018

<https://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/article/2018/03/13/iufro-news-vol-47-double-issue-23-march-2018/>

2018-02-19

Working across Sectors to Halt Deforestation and Increase Forest Area - From Aspiration to Action

<https://www.iufro.org/news/article/2018/02/19/working-across-sectors-to-halt-deforestation-and-increase-forest-area-from-aspiration-to-action/>

2018-01-30

IUFRO News Vol. 47, Issue 1, January 2018

<https://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/article/2018/01/30/iufro-news-vol-47-issue-1-january-2018/>

2017-12-14

IUFRO at the Global Landscapes Forum 2017

<https://www.iufro.org/news/article/2017/12/14/iufro-at-the-global-landscapes-forum-2017/>

事務局からのお知らせ

1. 第25回 IUFRO 世界大会ウェブサイト

第25回 IUFRO 世界大会(2019年9月29日～10月5日)

<http://www.iufro2019.com/>



2. IUFRO-J 平成30年度機関代表会議

第129回日本森林学会大会が高知大学（高知県高知市（主に高知大学朝倉キャンパス））で3月26日（月）～29日（木）の日程で開催されます。それにあわせて標記会議を開催いたしますので、機関代表者の方のご参加をお願いいたします。

日時：2018年3月27日（火） 12:00～13:00

場所：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館331講義室

議題：会務報告、会計決算報告、監査報告、事業計画案、予算など

3. IUFRO-J 研究集会事務局・参加助成

2019年3月までに開催される研究集会に対し、2018年12月末までに、IUFRO-J 研究集会事務局・参加助成申請を随時受付いたします。希望者は2018年12月末までに、規定の書式に従い助成申請書を提出してください。申請書の様式は下記のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/information.html>

4. IUFRO 名称と目的

IUFRO (International Union of Forest Research Organization, 略してユフロ) は、森林関連の研究におけるグローバルな協力を推進すると同時に、ステークホルダーや意思決定者へ科学的知見を発信しています。IUFRO は、1892

年に設立され、オーストリアのウィーンに本部を置く世界的、非営利、非政府、かつ非差別的組織です。IUFRO は、森林および林産研究や関連分野に貢献するすべての個人や組織に開かれています。会員規約及び特典については、下記をご参照ください。

<https://www.iufro.org/membership/>

5. IUFRO-J 名称と目的

IUFRO-J は国際森林研究機関連合日本委員会の略称です。IUFRO 本部の趣旨に沿って、森林・林業・林産業に関連する研究機関の相互連携を図り、IUFRO に関連する諸活動に貢献することを目的としています。本会の趣旨に賛同する機関・団体または個人は IUFRO-J の会員になることができます。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/kaisoku.html>

会費納入・研究者登録のお願い

IUFRO-J の活動は会費収入で運営されております。健全な会の運営のために会費納入をお願いいたします。

A, B 会員におかれましては、会費納入と併せて研究者（会則第5条）、連絡員（付則1）の登録（事務局への連絡）をいただいております。また、転勤・退職等で機関を離れた皆様には、あらためてご登録いただきますようよろしくお願いいたします。

納入方法

郵便振替の場合

郵便振替口座：00190-3-159224

名義：IUFRO-J 事務局

*事務局といたしましては、できる限り郵便振替をご利用いただきますようお願い申し上げます。

銀行振込の場合

筑波銀行 牛久支店 普通預金口座 697583

名義：IUFRO-J 事務局 ユフロ・ジェイ ジムキョク 沢田治雄 サワダ ハルオ

注意：-（ハイフン）をお忘れなく。

IUFRO-J News No. 123

平成30年3月26日

国際森林研究機関連合日本委員会（IUFRO-J）事務局
〒305-8687 茨城県つくば市松の里1
国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所内

TEL 029-829-8327（国際研究推進室）

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕